

発癌 I

授業概要

分子生物学の隆盛により発癌の分子過程のそれぞれのピースは次々に明らかにされている。しかし、細胞のレベル、個体のレベルでみると発癌を含めた癌の自然史で我々が自ら分析できる、すなわち知ることのできる部分がいかに限られていることか。我々が癌を知る上で常に意識しなければならないことは、「個々のピースを分析すること」と同時に、「それらを総合し発癌・癌の進展の過程にいかに当てはめることができるか」という分析と統合の作業を程よいバランスで行うことである。

この講座では、癌の発生・進展のうち特に「発癌」をメインテーマに、基礎医学、臨床医学の立場からそれぞれの専門家が、オムニバス形式で講義を行う。

担当教員

嘉数直樹（主担当）	准教授・環境予防医学
木下芳一	教授・内科学第二
中山健太郎	講師・産科婦人科

一般目標 general instructional objectives

癌学の基礎（分子生物学、細胞遺伝学、細胞生物学）ならびに臨床（診断学、治療学）全てを学ぶ上で、発癌について学ぶことの重要性を理解できる。

行動目標 specific behavioral objectives

1. 発癌の分子機構とそれに基づいた分子標的治療法について説明できる。
2. 発癌の分子疫学について説明できる。
3. 固形腫瘍と造血器腫瘍の発癌機構を説明できる。
4. 消化器癌の発癌機構を理解できる。
5. 卵巣癌、卵巣明細胞腺癌の発癌機構、臨床病理学的特徴、治療戦略を理解できる。
6. 肥満と癌の関連性について説明できる。
7. 職業性曝露による発癌について説明できる。

成績評価の方法

すべての講義が終了後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

使用テキスト・参考文献

McKinnell RG, Parchment RE, et al: The Biological Basis of Cancer, 2nd ed. Cambridge University Press, New York, 2006

教育内容（講義および演習）

回	授業内容	担 当
1	発癌の基礎（総論） 発癌の分子機構	嘉数直樹
2	発癌の分子疫学	〃
3	固形腫瘍の発癌機構	〃
4	造血器腫瘍の発癌機構	〃
5	発癌の基礎（各論） 喫煙による発癌機構	〃
6	遺伝子異常による発癌機構	〃
7	発癌リスクとしての肥満	〃
8	職業性曝露による発癌（石綿、有機溶剤等）	〃
9	発癌機構に基づいた分子標的治療法	〃
10	発癌の臨床（内科的アプローチ） 消化器における炎症と発癌	木下芳一
11	消化器癌の画像診断学	〃
12	消化器癌の特殊治療学	〃
13	卵巣癌の発癌機構	中山健太郎
14	卵巣明細胞腺癌の臨床病理学的特徴	〃
15	卵巣癌の治療戦略	〃